漏水補修で大きな効果

名古屋市上下水道局

水管橋漏水補修で採用

『ウルトラパッチ』締め具等困難現場に有効

名古屋市上下水道局は、水管橋の漏水修理で、FRPシートを紫外線で硬化するスーパー補修材（阿南電機製、製品名『ウルトラパッチ』）を採用した。本紙では製品の採用背景や現状、今後への期待などについて、同局の担当者に取材した。

（大阪新聞部・石上和弘）

尾藤技師

多和田係長

名古屋市の水道事業は、平成29年度末で給水人口約245万人、1日最大給水量約83万立方㍍、普及率100%、有収率94・3%などとなっている。配水管延長は約8400㌔で、水管橋は約560カ所ある。

「水管橋が多いのは、市内に大小約60の河川が流れているためで、市西部に集中しており、主に鋼管を採用しています。水管橋は河川で分断された管網を接続する重要管路で、漏水や外面塗装劣化などについて、重要度に応じた周期で定期点検しています。漏水が確認されれば、もちろん修理していますが、塗装劣化が確認された場合は、再塗装工事の是非を判断し、随時実施しています」と紹介するのは、多和田カ・上下水道局技術本部管路部配水課管理係長。

同市最南部の緑区内にある水管橋（φ200鋼管、延長10㍍、昭和56年度設置）も、塗装劣化が確認されたため、再塗装工事が必要と判断し、既設塗装を除去した。その際、護岸コンクリート際の管路溶接部付近で、ピンホール状の穴から少量の漏水が発見された。

尾藤恒太・同部配水課技師は「水管橋の漏水補修は基本的に締め具を使用し、一部は直営施工しています。それによる補修が困難な場合、溶接補修を行っています。今回の漏水は場所的に両方とも施工できない上、不断水で補修を行う必要がありました。そこで、過去に採用実績があった『ウルトラパッチ』で、漏水補修できる可能性が高いと判断し、工事を実施しました」と説明する。

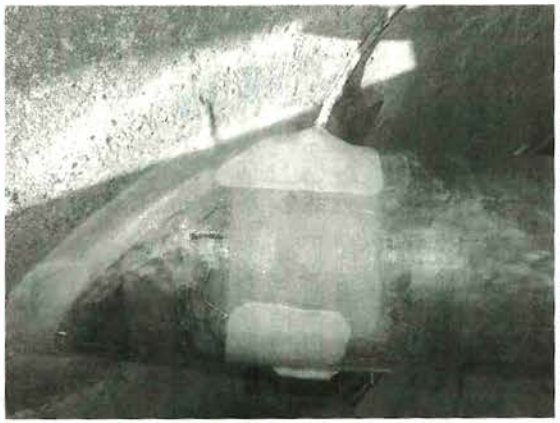
『ウルトラパッチ』は、管路漏水箇所にFRPシートを貼り付け、紫外線照射で硬化する補修工法で、全国で採用実績が近年増えてきている。

『ウルトラパッチ』は断水や溶接などを必要とせず、現場条件が厳しい場所での採用効果は高いと考えています。また、工事は今年2月に実施し、数日で済みました。施工後に漏水は発生しておらず、補修箇所も特に問題ありません」（尾藤技師）

今後の採用について、多和田係長は「水管橋の漏水は年間数件程度ありますが、本市では現場条件に応じ、施工性や経済性などを加味しながら、最善の補修方法をその都度判断しています。『ウルトラパッチ』は狭隘な場所でも補修できるので、選択肢の1つとして有効ではないでしょうか」と語る。

尾藤技師は「『ウルトラパッチ』は狭隘な施工現場、締め具や溶接などの従来工法で対応困難な場面で特に有効な工法ですが、特殊な技能を必要としますので、今後は地元企業などと連携できれば、さらなる採用拡大につながると思います」と期待を寄せた。

水管橋護岸コンクリート際の管路溶接部付近で漏水



『ウルトラパッチ』の施工過程で紫外線で硬化中

『ウルトラパッチ』での施工が完成（塗装して仕上げ）

ウォータービジネス　時流

就任インタビュー

2本柱の事業に磨きをかける

人材確保と育成、持続の鍵に

6月10日に開催された株主総会で代表取締役社長に就任した。「当社は前身の財団法人の時期を含め50年以上の歴史を有しています。株式会社化し今年で9年目を迎えますが、歴代のトップが適切に舵取りを行ったことで、これまで黒字基調で推移しています。その経営を引き継ぐ重責に大変身が引き締まる思いです」と心境を語る。

今後の経営方針については「名古屋市の出資団体として、局の公的業務を補完・代行する役割を引き続き担うなか、信頼されるパートナーとしての立場をより強固なものにしたい。さらに、近隣事業体の業務支援や研修、講習会の開催など、株式会社化したことで可能となった新たな業務にも積極的に取り組みます。経営基盤の強化と言務に関する取り組みについては「局が保有する雨水ポンプ所52施設のうち、当社は30施設の運転管理を行うなど、多くの現場業務を受託しています。官民連携は今後、より包括的かつ長期間のスキームが増加すると予想されますが、一方で、事業体職員は現場経験を積むフィールドが減少し、事業者に対する

し、現在は5市2町の業務支援を行っています。当社はソーシャルカンパニーとして社会的課題の解決と営利企業の融合を理念としていますが、あくまでも事業体の視点に立ち、局で培った技術とノウハウで上下水道を一体的にサポートできる強みがあります。今後も拡大する公的補完領域のニーズにこたえ

持つ技術、技能、ノウハウが経営資源の全てと言っても過言ではありません。現職社員に対しては計画的な資格取得の支援、業務の改善・提案に対する表彰を行うなど、人材育成に積極的に取り組んでいるところです。しかし、プロパーの若手社員、彼らを指導する局のOBとも採用が難しい状況が続いて

総会で

水道顧問技師会関西支部（安藤朝廣

水道関係2テーマで討議